

化学物質の使用・排出量を把握し、
リスク管理の考え方に基づいて削減に取り組んでいます。

●考え方

リコーグループでは、世界各地で規制の対象となっている化学物質を、「禁止」、「削減」、「管理」対象に分類し管理しています。「削減」対象の化学物質については、リスク管理の考え方を適用して削減に取り組んでいます。これは、各化学物質の環境影響の大きさに応じて環境影響係数*1を設定し、使用量、排出量に重みづけすることで、環境影響の大きな化学物質を把握、重点的に削減していくという考え方です。また、環境リスクを未然に防止するためにグループで統一した基準を設定しています。この基準に基づき、各事業所は環境への浸透や流出などを防止するための取扱管理を徹底し、汚染予防に努めています。さらに、地域社会の信頼を得るため、化学物質に関するリスクコミュニケーションを行っています。

*1 環境影響係数は毒性、発ガン性、オゾン層破壊影響などを考慮して、リコーで設定した値です。

●2007年度までの目標

◎自社生産分に引き続き、社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用を全廃

●2006年度のレビュー

社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用全廃については、2005年度末に目標を達成し、完了しています。環境影響化学物質の使用量は、2000年度比48.7%削減*2、排出量は2000年度比88.9%削減*3と現状レベルを維持することができました。(グラフ①)。2006年度は、沼津事業所での溶剤燃焼装置の導入や、リコーユニテクノでのリスクコミュニケーションミーティングの開催などの活動をおこないました。

*2、*3 いずれも環境影響度換算

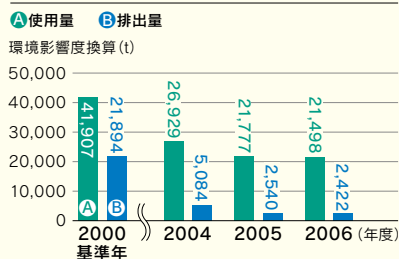
●今後の取り組み

化学物質の使用・排出については、事業が大幅に拡大しても、使用・排出量が増加していかないよう削減活動を進めていきます。2007年度は、これまで実施してきた削減活動を継続していきます。また、化学物質のリスク評価、管理、リスクコミュニケーションについて、レベルアップを図っていきます。

《リコーグループ全体》

リコー削減対象物質の使用量・排出量推移

①リコーグループ(生産)



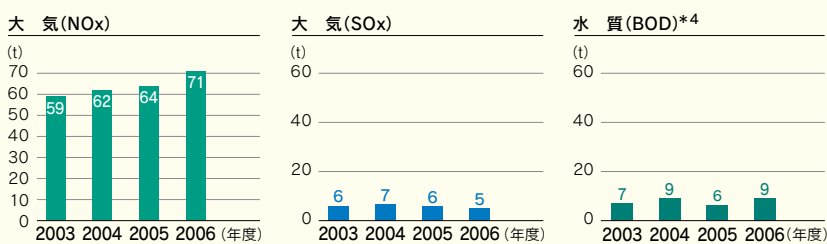
*4 公共用水域への排出分を集計しています。

※ リコー削減対象物質とは、98~00年度に電気・電子4団体で実施したPRTRの対象物質です。PRTR法の定める物質とは、一部範囲が異なります。個別の物質の使用・排出量についてはホームページをご覧ください。 <http://www.ricoh.co.jp/ecology/data/index.html>

※ ①②のグラフには、リコープリンティングシステムズとShanghai Ricoh Digital Equipmentのデータは含まれていません。

公害防止関連項目の排出量推移

②リコーグループ(生産)



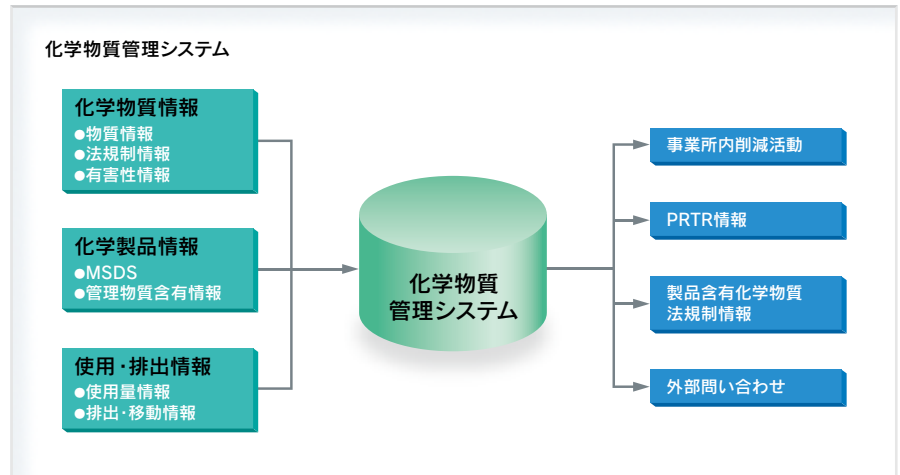
事業所における汚染予防活動のセグメント環境会計（リコーグループ全体）

コスト			効果		
コスト項目	主なコスト	金額	経済効果	環境保全効果	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	186.4百万円	社会コスト削減額	15.4百万円	NOx……………-5.0(t)
			リスク回避効果額(偶発の効果)	1,226.6百万円	SOx…………… 1.1(t)
			BOD……………-3.1(t)		
			PRTR対象物質… 101.7(t)		
			(リコー換算係数により合計)		

ITシステムによる 化学物質管理と情報開示

《リコーグループ／グローバル》

リコーグループは、独自に構築した「化学物質管理システム」によって、製造工程で使用する化学物質の使用量・排出量・廃棄量を把握しています。このシステムを活用して、使用削減活動の推進やPRTR資料の作成を行っているほか、世界各国のお客様やOEM先、市民団体などからの化学物質使用量に対するお問い合わせにも迅速に情報提供しています。



TOPIC

市民、地域、行政との リスクコミュニケーションミーティングを開催

《リコーユニテックノ／日本》

環境リスクの低減を目的に対話

2007年1月24日、NPO法人埼玉環境カウンセラー協会主催の「環境コミュニケーションミーティング」がリコーユニテックノ（埼玉県八潮市）で開催されました。この会合は、市民や行政、企業が一同に集まり、環境汚染や化学物質に関する情報共有と相互理解を深め、環境リスク低減を図ることを目的としたものです。当日は、市民、環境カウンセラー（NPO）、埼玉県・八潮市の行政関係者、リコーおよびリコーユニテックノ社員計28名が参加しました。当日は、リコーグループ環境経営の紹介とリコーユニテックノの環境保全活動についてのプレゼンテーション、複写機・ファクシミリ組立工程の見学が行われましたが、参加者は、従来のコンベアラインに比べ電力使用量を40分の1に削減した「台車引き生産ライン」などのリコーグループ独自の生産プロセス革新事例に興味深そうに見学していました。



複写機組立工程を見学



ミーティングの様子

環境保全のノウハウをもっと地域に伝えるべき

最後に行われた意見交換会では、「キシレン、トルエンなど、排出濃度を報告している企業が多いが、リコーは使用量を絶対値で減らしている」（市民）「事業の成果を出しながら、環境目標を達成している姿に感動した」（市民）「環境配慮は利益と一致するという考え方はすごい。このような素晴らしい取り組みを広めるのが、環境カウンセラーや行政の仕事だと思う」（NPO）など、環境経営の実践に共感する意見が多く出されました。また、「一企業だけが優れた活動をしていても八潮市全体は良くならない。もっと地域にノウハウを伝えて欲しい」（市民）「地域住民のためにリコーユニテックノのサイトレポートを発行して欲しい」（行政）などの要望もいくつか上がりました。リコーユニテックノでは、いただいた意見を今後の課題として具体的に検討し、2007年度以降の取り組みに加えていく方針です。